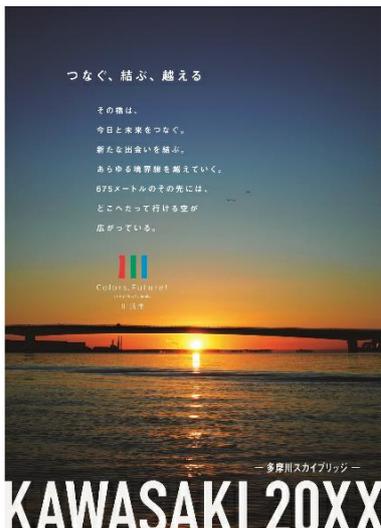


## 多摩川スカイブリッジの開通（令和4年3月）



多摩川スカイブリッジは多摩川の河口から1番目、日本の空の玄関口である羽田空港の目の前にかかる橋であり、国際競争力向上を目的とした国家戦略特別区域のプロジェクトの一環として、本市を含む京浜臨海部と羽田空港周辺地域の連携強化を目的に川崎市と東京都が共同で整備を進めていました。

この事業については、市民にとってより良い整備事業となるよう市議会でも議論が重ねられ、市と関連機関との長年の協議・検討の末、整備工事が行われ、令和4年3月に開通しました。

### 議会での審議経過と市の取り組み

広報キャラクター

およよん



【平成16年 第1回定例会（3月）】

#### 質問

神奈川口構想に関する協議会の初会合が開催され、その中で市長は、空港との連絡道路整備が検討課題に含まれたことを評価するとともに、その完成が新滑走路供用開始に間に合うよう、強く国へ要望されたとのことですが、国の対応について教えてください。

#### 答弁

連絡道路に対する国の対応ですが、事業手法や事業主体等については、国、関係自治体で検討を行うことと、平成15年11月に国、東京都、県関係自治体、都市基盤整備公団で設置している京浜臨海部幹線道路網整備検討会議と連携を図り、ルート、構造、沿道環境影響調査等を進めることについて合意したところです。

#### <神奈川口構想とは>

羽田空港の再拡張・国際化の効果やメリットを川崎市において最大限に発揮させるため、羽田空港の再拡張事業と並行して、川崎市から羽田空港近隣に接続する「羽田連絡道路」の設置等により、相互のアクセス環境の向上を図ることとしました。この構想の実現に向けて、具体的な検討を進める場として、「神奈川口構想に関する協議会」が平成16年2月に設置されました。

※その後も、市議会では神奈川口構想について度々取り上げられ、議論を重ねました。

**【平成20年 第4回定例会（9月）】**

**質問**

協議状況について確認します。これまで神奈川口構想の発表から、大田区とはどのようなやりとりが行われてきたのか教えてください。その上で、本市と大田区との関係についてどうしていくつもりなのかを聞かせてください。

**答弁**

大田区側との調整についての質問ですが、協議会の設置以降、羽田連絡道路計画などについて意見交換を行ってきました。連絡道路の整備方針案を本市が発表するにも、事前に説明を行っています。今後も関係機関と調整、協議を行っていきます。

**【平成24年 第1回定例会（2月）】**

**質問**

多摩川の対岸に位置する大田区との連携について質問します。大田区でも今回、国際戦略総合特区が指定されました。ものづくりの拠点として指定によって活性化が期待されています。この間、川崎市では大田区のものづくり企業などと医工連携に向けたセミナーや交流会を積み上げてきたと聞いています。今後はどうしていくのか教えてください。

**答弁**

国際戦略拠点についてですが、京浜臨海部全体の発展を考えますと、こちら側だけではなく、羽田空港を中心に多摩川兩岸の地域が一体となってまちづくりを展開していくことが重要であると考えています。大田区とは羽田空港の国際化を生かしたまちづくりや両者の特区の取り組みについて連携して、相互に協力しながらまちづくりを進める関係を構築しています。

**取り組みとしては・・・ 川崎市と大田区が協定を締結**

こうした中、平成25年4月に本市と大田区の間において、企業誘致・企業間連携、土地利用・インフラ等の相互連携強化を目的とした「大田区と川崎市との産業連携に関する基本協定」が締結されました。この協定は国際戦略総合特区をもつ自治体同士の連携協定としては、全国で初めての取り組みでした。

【平成26年 第1回定例会（3月）】

質問

大田区との連携は頻りに交流が行われていると聞いていますが、取り組みと今後の方向性について教えてください。次に、特区構想を通じて本市と大田区の連携が深まってくればくるほど羽田連絡道路の必要性が増してきます。平成26年度施政方針にも、羽田連絡道路について関係機関と整備促進に向け協議検討とうたわれております。現状と方針について説明をお願いします。

答弁

大田区との連携についてですが、基本協定を締結するとともに、川崎ものづくりブランド10周年記念フォーラムへの大田区企業の参加や、産業観光共同ツアーの企画等を行ってきました。協定に基づく特区间連携の取り組みを初めとして、積極的に交流・連携を図ります。次に、連絡道路についてですが、国主催による特区の連携に関する検討会などで関係者との合意形成に向けた議論を進めており、その中で、連絡道路の効果や課題の整理を行っているところです。今後はそうした状況も踏まえ、取り組みを推進していきます。

こうして協議調整を進めた結果・・・ 整備事業が決定

国・地方の関係機関による協議調整及び特区间の更なる連携強化の具体化を図ることを目的として設置され、平成26年から平成28年までに計3回開催された、「羽田空港周辺・京浜臨海部連携強化推進委員会」の場で、国際競争力の強化に向けた国家戦略特別区域のプロジェクトの一環として、羽田連絡道路は、羽田空港を中心とした成長戦略拠点の形成を支えるインフラであり、川崎市、東京都及び国土交通省航空局が協力して整備することが決定されました。

<空撮図>



<位置図>



整備方針の決定後も羽田連絡道路について、市全体より良い事業となるよう、市議会で幾度も取り上げられ、市は様々な形で改善に向けた取り組みを行ってきました。

【平成27年 第4回定例会（9月）】

質 問

羽田連絡道路について伺います。日本野鳥の会のホームページには、多摩川河口干潟は、国際的な鳥類保護組織のバードライフ・インターナショナルが選定した重要野鳥生息地、東京湾奥部として指定されていると紹介されています。この貴重な多摩川河口干潟の重要性について、川崎市としてはどう考えていますか。

答 弁

多摩川の河口には河口干潟が存在し、多種多様な生き物の生息環境が形成され、身近で貴重な自然空間と認識しているところです。羽田連絡道路の整備に当たりましては、自然環境への配慮は大変重要なことと考えていますので、環境に係る調査を十分に行った上で、周辺環境への影響を検証しながら取り組みを進めます。

取り組みとしては・・・ 自然環境に配慮した橋梁構造に

市の実施した自主的環境調査によって判明した貴重な河口干潟に存在する生体保持空間へ配慮するため、橋脚の数を可能な限り少なくした2基にして、3区間で区切られた構造としました。また、多摩川に飛来する鳥類に配慮し、飛翔阻害面積の抑制や、視覚的な圧迫感を抑制しつつ、耐震性等にも優れた『複合ラーメン構造（橋桁と橋脚部分を一体化し、強度を高める構造）』を採用しました。

<完成イメージ図>



【平成28年 まちづくり委員会（4月）】

**質問**

羽田連絡道路ですが、今後も名称は羽田連絡道路という名前のままなのでしょうか。それともどこかの時点で橋の名前はつけますか。

**答弁**

愛称名等については今後関係機関と調整をしながら検討したいと考えています。

取り組みとしては・・・ **公募により橋の名称を決定**

親しまれる橋を目指し、令和3年1月15日～2月15日の期間で羽田連絡道路の名称を決定する公募を行いました。8,498通もの応募の中から、応募数に限らず地区全体の魅力を高めるような名前を持ち、川崎市と東京都の双方から愛着が得られる、そして国際的な視点から違和感のない名前かを踏まえ、検討委員会での審議を経て「多摩川スカイブリッジ」に決定しました。

応募数上位の20案	
スカイブリッジ	ウイングリバーブリッジ
キングスカイブリッジ	羽田スカイブリッジ
リバーウイングブリッジ	羽川橋
ウイングブリッジ	川崎スカイブリッジ
スカイゲートブリッジ	スカイウイングブリッジ
未来橋	多摩川スカイブリッジ
羽田橋	キングウイングブリッジ
殿羽橋	羽殿橋
ブルースカイブリッジ	スカイリバーブリッジ
羽田ブリッジ	大空橋

## 多摩川スカイブリッジの概要

事業費 約300億円（橋りょう部：約260億円 市側取付部：約40億円）

事業主体 川崎市、東京都

事業期間 平成29年1月～令和4年3月

多摩川スカイブリッジ概要 全長：約675m 幅：通路部17.3m～21.3m

【スカイブリッジ全景】



【河川敷からの外景】



【工事の様子】



【まちづくり委員会による現地視察】



広報キャラクター

およん



※多摩川スカイブリッジに関する詳細については…  
<https://www.city.kawasaki.jp/530/page/0000097966.html>